

日本労働年鑑 第52集 1982年版  
The Labour Year Book of Japan 1982

第二部 労働運動

XI 農民運動

2 主要な農民運動

4 三里塚(成田)空港廃港闘争

二期工事阻止・廃港闘争

千葉県成田市の成田空港建設反対闘争は一九六六年いらい、三里塚・芝山連合空港反対同盟に結集する農民とこれを支援する千葉動労などの労組、全国の軍事基地・公害反対住民組織・学生などによって一五年にわたりつづけられている。この反対闘争により、七八年五月に開港したものの、成田空港はいぜんとしてA滑走路のみの欠陥空港にとどまり、さらにジェット燃料輸送の本格的パイプラインの建設遅延問題、騒音問題など多くの難問をかかえたままになっている。八〇年六月二五日の松崎運輸相の成田パイプライン工事の遅延宣言、七月二八日の大塚新国際空港公団総裁の引責辞任はこのことを端的にあらわしている。

八〇年九月一五日、反対同盟は芝山町の旧岩山小学校グラウンドで七一年九月一六日の第二次強制執行闘争を記念するとともに「一〇・二一国際反戦デー」に向けた秋期闘争の一環として「九・一五三里塚空港廃港全国現地総決起集会」を開催した。集会には反対派農民はじめ支援労働者・学生・住民団体代表など五五〇〇人(県警調べ四三〇〇人)が結集、「二期工事・パイプライン工事阻止」、「ジェット燃料の暫定貨車輸送延長阻止」をスローガンに完全廃港闘争の継続を再確認した。集会後、参加者は空港周辺をデモ、同時に洋ダコや花火を断続的に打ち上げ、古タイヤを燃やすなど飛行妨害闘争をおこなった。この日、警察庁は九〇〇〇人の機動隊を配置し厳戒体制をとった。また、反対同盟は一〇月一三日から七日間、成田空港の二期工事阻止完全廃港に向けて「十月大行動・総決起」闘争をくりひろげた。一六日、東京の空港ターミナルちかくの箱崎公園で集会と運輸省デモを、最終日の一九日は、東京の代々木公園で支援グループをふくめた一万二五〇〇人により「二期工事阻止・完全廃港決起集会」を開催した。集会後、参加者はデモ行進により完全廃港を都民に訴えた。

燃料輸送延長阻止闘争

ジェット燃料の暫定貨車輸送の期限八一年三月を間近にひかえ本格パイプライン(千葉港～空港間)工事の大幅遅延が確定的となったため、塩川運輸相は八〇年一二月二日、高木国鉄総裁に「国鉄貨車による暫定輸送」を八三年一二月末までの期間延長を要請した。八一年一月八日、国鉄当局は国鉄労組や動労と合意に達したが、千葉動労は断固拒否、反対同盟とともに新たな延長阻止闘争を展開した。

反対同盟は八〇年一二月七日、千葉動労や沿線住民と連帯し「ジェット燃料貨車輸送延長阻止全国総決起集会」を芝山町の旧岩山小跡地で開催した。集会参加者は三三五〇人(県警発表二九〇

〇人)であった。また、反対同盟は暫定輸送の期限切れにあたる三月二日から始まる千葉動労のジェット燃料輸送拒否の指名スト闘争に呼応し、八一年三月一日、現地に支援労組員、学生、周辺住民九八〇〇人(県警発表三八〇〇人)を結集し、千葉動労の闘争支援を確認のうえ輸送阻止闘争に入った。

三月六日、千葉動労は千葉鉄道管理局の助役機関士による強行燃料輸送に抗議して二四時間全面ストを実施したが、反対同盟も支援グループとともに支援集会(五〇〇人)をひらき輸送延長阻止闘争をおこなった。さらに反対同盟は管制塔襲撃事件三周年を記念して、三月二日、「空港廃港・二期工事阻止全国総決起集会」を成田市の三里塚第一公園で開催した。この日、集会には五二〇〇人(県警発表二九〇〇人)が参加、千葉動労燃料輸送阻止闘争支援を再確認、二期工事絶対阻止を誓った。集会後、参加者は空港南側周辺をデモ、古タイヤを燃やし、バルーンを上げ飛行妨害行動をおこなった。千葉県警はこの日、八〇〇〇人の機動隊を動員したが、貨車輸送と滑走路南側の使用はストップした。また、国鉄公安本部は闘争期間中、全国から集めた公安職員による常時巡回警備をよぎなくされ、民間ガードマン(約四〇〇人)によるトンネル、橋、変電所などの巡回夜間警備を強制されている。

## 二期工事粉碎闘争

空港公団は二期工事着工準備のため二期工事予定地(五一五ha)内の買収仕事をすすめてきたが、三月二〇日現在、反対派農家一二戸の約三二haと反対派農民・支援グループの所有する一坪共有地一・四haはいぜん買収不能状態にある。

反対同盟はこの公団側の譲渡工作にたいし、断固拒否することを指令、二期工事決戦の態勢づくりに集中した。五月二四日、反対同盟は岩山小学校跡地に六五八〇人(県警三六〇〇人)を集め「出直し強行開港三周年、二期工事着工粉碎五・二四全国総決起集会」をひらいた。ここで集会は、予定地内の切りくずし工作、一坪用地買収攻撃、芝山町までの京成成田線延長着工計画などの二期工事準備仕事を粉碎することを確認したのち、空港周辺のデモに入った。古タイヤを燃やす飛行妨害闘争もつづけられた。

このように成田空港廃港闘争は間断なく続行され、二期工事着工を不可能にしている。この間「支援グループによる多様なゲリラ闘争も展開されてきた。水資源開発公団—鍬田分水口の無人農業用水ポンプ小屋焼失事件(八〇年九月一五日)、燃料輸送妨害事件(八一年二月二五日、三月八日)、燃料輸送列車襲撃・炎上事件(三月一六日)などはその一例にすぎない。

日本労働年鑑 第52集 1982年版

発行 1981年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年9月18日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1982年版(第52集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---